

【運営方針4】開かれた農大づくり

| 【基本方向】地域と連携した活動等による情報発信 | | | | | |
|------------------------------|--|--|---|------|--|
| 評価項目 | 評価目標 | 具体的方策と指標・基準等 | 取組状況 | 自己評価 | 次年度に向けた改善策 |
| 1 農業教育機関との交流推進 | (1)連携活動数:3計画 | <p>① 高大連携活動の実施【継続】 農業関係の高校生の就農等を促進するため、農業高等学校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言など、連携した就農支援を行う。また、普通高等学校との連携として、山辺高等学校食物科と農産加工経営学科(2学年)が、農林大の卒業論文研究で試作した製品に関するアンケート調査の取組みや農林大で生産した食材を提供し、高校生の食品開発を支援する取組みを行う。 高校生の林業に対する理解を促進するため、高校での林業に関する授業の実施や、刈払機、チェーンソーの安全操作を指導する。</p> <p>② 体験・出前授業の実施と農林大ホームページの充実【拡充】 農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施する。また、出前授業では、各学科の職員が高校を訪問し、講義を通して農業や林業の役割・意義や学習内容等について紹介する。 令和4年度より農林大ホームページをリニューアルしたことから、これを契機にホームページからの写真や動画による情報発信回数を増強し、農林大の魅力を高校生等へ伝える取組みの充実を図る。</p> | <p>・ 山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会や意見発表会・プロジェクト発表会において本校職員が指導・助言を行った。高大連携実技講習会の夏期さくらんぼ剪定を8月に実施し、高校からの参加者(1名)があった。冬期管理講習会(さくらんぼ・りんご)のりんごせん定講習会については、講師の都合により、延期した。</p> <p>・ 山辺高等学校食物科と連携した取組として、農林大で製造した冷凍アスパラガス及びアスパラペーストを提供して試作品を作成した。</p> <p>・ 高校生に対する林業・森林経営に関する授業を6月、8月に村山産業高等学校(2回)と6月、9月に置賜農業高等学校(3回)で実施した他、今年度、新たに県内の高校生・高校教諭を対象にICTなど最新の技術を活用した林業現場の視察研修を開催し、生徒(5名)および教員(2名)が参加した。</p> <p>* 強化練習会等における指導等、山辺高等学校との連携、林業・森林経営に関する授業の3計画を実施できたことから、「C」評価とする。</p> | C | <p>・ 活動内容については、農業高校との連携強化推進会議で検討し、生徒が農林業を進路選択の一つとするよう各種取組みを実施する。</p> <p>・ 山辺高等学校食物科との連携活動として、農産加工経営学科(2学年)が卒業論文研究で試作した製品に関するアンケート調査等の取組みや農林大で生産した食材を提供し、高校生の食品開発を支援する取組みを行う。試作した加工品については、農大市場で販売してもらうなど、高校生に対して販売機会を与える取組みを行う。</p> <p>・ 高校生への林業・森林経営に関する授業は、各高校と日程・内容を調整しながら来年度も引き続き実施する。</p> <p>・ 高校生に対する職業としての農業選択の機会を高めるため、来年度も高校と時期や内容を調整しながら、「キャンパスツアー」や出前授業等を開催する。</p> <p>・ 来年度もホームページからの写真や動画による情報発信を強化する。</p> <p>・ ウェブオープンキャンパスについて、キャンパスツアーや各種学校説明会で紹介し、高校生等への本校理解の促進を図る。</p> |
| 2 地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施 | (1)プロジェクト実施数:7課題 (2)地域と連携した取組み数:3課題 | <p>①「地域協働研究プロジェクト」の実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、農林大の栽培や農産加工技術の強みを活かした課題解決に向けた地域支援活動を行う。 (稲作経営学科)地域の未利用資源プロジェクト (果樹経営学科)最上さくらんぼの生産振興プロジェクト (野菜経営学科)希少伝統野菜の系統維持・増殖と生産拡大支援プロジェクト (花き経営学科)枝物花木の生産支援プロジェクト (畜産経営学科)和牛繁殖経営における肥育部門スタートプロジェクト (農産加工経営学科)規格外アスパラガスを活用した加工品開発プロジェクト (林業経営学科)若手林業者育成プロジェクト 目指せ、森林人！</p> <p>②地域と連携した取組み【継続】 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」、「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、地域の活性化や栽培・飼養管理技術の向上につなげる。</p> | <p>・ 全学科の1学年学生が各々の学習内容を生かし、以下の連携先と地域協働研究プロジェクトに取組んだ。</p> <p>(稲作経営学科)丸善食品工業株式会社 (果樹経営学科)最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進協議会、最上総合支庁農業技術普及課 (野菜経営学科)最上伝承野菜推進協議会 (花き経営学科)JAもがみ中央、最上総合支庁農業技術普及課 (畜産経営学科)佐藤綾氏、酒田農業技術普及課、庄内家畜保健衛生課、畜産研究所 (農産加工経営学科)最上町、山辺高等学校食物科 (林業経営学科)新庄神室産業高等学校</p> <p>・ プロジェクト発表会を2月に行い、各連携先から意見をいただいた。連携先からは、プロジェクトの成果を高く評価いただき、さらなる研究の継続を依頼された。</p> <p>* プロジェクト実施数は、目標通りの7課題であることから、「C」評価とする。</p> | C | <p>・ 「地域協働研究プロジェクト」について、農林大の栽培や農産加工技術等の強みを活かして、さらに地域の課題解決につなげられるよう、課題内容について検討し、引き続き実施していく。</p> <p>・ 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」、「山形フラワーフェスティバル」等のイベントに参加、協力し、地域の活性化に寄与する。</p> |
| 3 ボランティア活動への支援 | (1)取組み数:3取組み | <p>① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、今後の学習や進路選択に活かせるよう、新型コロナウイルス感染に注意を払いながら、学生のボランティア活動(さくらんぼサポーター活動や高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。</p> | <p>・ さくらんぼの収穫労働力の支援として、「さくらんぼサポーター」を結成し、学生有志11名が6月、東根市のさくらんぼ園地で管理作業に協力した。</p> <p>・ 新庄社会福祉協議会からの依頼を受け、2月に市内の高齢者世帯(3世帯)の除雪支援に学生34名が参加した。</p> <p>* 取組み数は、「さくらんぼサポーター」と「除雪ボランティア」の2取組みのみであったが、「除雪ボランティア」には34名もの多くの学生が参加し、高齢者の方から大変感謝されたことから、「C」評価とする。</p> | C | <p>・ 「さくらんぼサポーター」については、県全体で取組んでおり、引き続き、学生の参加を促していく。</p> <p>・ 各種イベントでのボランティア活動は、学生のコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上つなげられていることから、来年度も、積極的に参加していく。</p> |



山形県立農林大学校HP

| 自己評価 | 自己評価 |
|--|------|
| <p>・ 農業教育機関との交流推進については、コロナ禍により各種活動が制限を受ける中ではあったが、県内高等学校と連携しながら、3計画を実施することができた。</p> <p>・ 地域の課題解決のため、地域と連携して各学科1課題、合計7課題に計画通り取組んだ。その成果を発表するプロジェクト発表会において、連携先から高い評価を得ることができた。</p> <p>・ ボランティア活動については、コロナ禍の影響により十分な活動ができない部分があったが、ボランティア活動先からは大変感謝されたことから、目的を達成した。</p> | C |

| 学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策 | 学校関係者評価(意見) | 評価 |
|---|---|----|
| <p>・ 高校生のプロジェクト・意見発表会の東北地域のレベルが高く、県勢は東北大会を突破するのが難しい状況である。是非、農林大学校の卒論発表会などをオンラインで視聴できるようにするなどの取組みをお願いしたい。 → 全国大会上位入賞者の動画が、全国農業大学校協議会ホームページ上で公開されているので、ご利用いただきたい。</p> | <p>・ コロナ禍で物資の流通が停滞し、肥料費高騰が問題になっている昨今、地域との連携はこれから益々重要になると思います。戸沢村と連携して、豚ふん堆肥の活用は素晴らしい実績です。！！</p> <p>・ 「ウイズコロナ」になり、来年度からは今よりは「イベント・研修会」等をやりやすくなると思います。これからも、新規就農者向けや高校生への発信を続けていって欲しいです。</p> <p>・ 全国大会での上位入賞大変素晴らしいことです。自ら考え行動すること、これから社会に出て実践していただきたい。</p> | C |